



アメリカ視察報告会

～ サインバスケを求めて ～

特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)



言語の定義

- **日本語（音声含む）** → アメリカでは英語
 - 日本における一般的な音声言語のこと。
- **手指日本語（日本語対応手話）** → アメリカではSEE (Signing Exact English)
 - 手指だけで日本語を視覚化したもので、文法体系は日本語と同じ。
- **日本手話** → アメリカではASL (American Sign Language)
 - 手の形、位置、動きをもとに、表情も活用する独自の文法体系をもった手話（視覚）言語として法律で認知され、守られている。

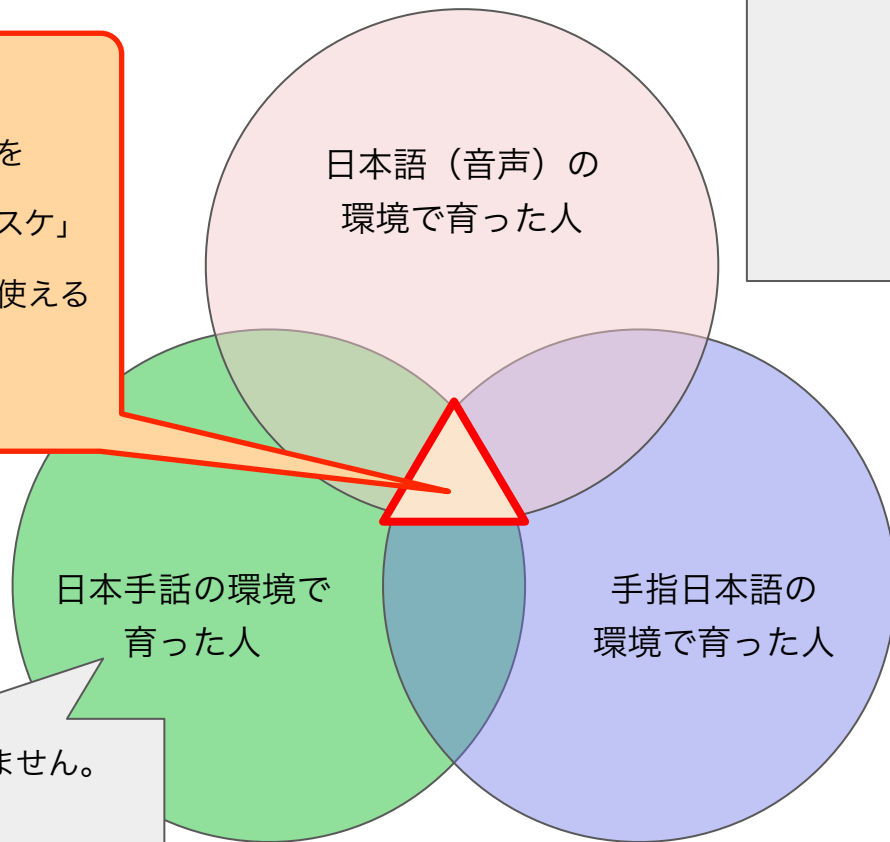
ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)

言語は、ある特定の集団が用いる、音や文字による事態の伝達手段である (Wikipediaより)



サインバスケとは？

重なっている共通部分の中で
バスケ競技に特化したサインを
作り出したものが「サインバスケ」
であり、多種多様な人ビチが使える
言語のひとつとして探求中



日本語手話は日本語ではありません。
まったく違う言語です。

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)

※JDBAホームページ





なぜ、視察へ行こうと思いついたのか？

本気で日本デフバスケット ボール界の現状を 変えたかったから！！

- 手話が母語であるデフ選手が置いてけぼりにされやすい現状
- 「手話通訳がいれればいい」「字幕をつければいい」では足りない
- 『日本サインバスケ(*)』の思想はデフバスケ強豪国にもあるのか
 - 手話、日本語に拘らず、視覚的に訴えた表現を新しく創る
 - 異言語同士がお互いに歩み寄る持続可能な社会を実現する

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)




なぜアメリカなのか？

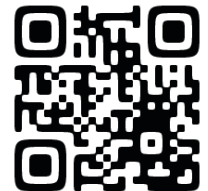
- デフバスケ強豪国（男子は世界ランキング1位、女子は2位） 



- 2019年にポーランドで行われた世界選手権で、アメリカチームは母国での合宿やチーム練習はせず、現地での練習のみで優勝した。どうやって戦略を含む深い対話を短期間でチーム作りを進めることができたのか、気になった。

- アメリカチームを見れば、手話メインで対話しており、

技術だけの問題ではないことは一目瞭然である。2015年女子代表の動画 



ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)



アリゾナ州デフバスケサマーキャンプの案内

- **イベント名**
 - 第23回 アリゾナ州デフバスケットボールサマーキャンプ
- **主催**
 - AZDF (Arizona Desert Fire) というデフバスケチーム
 - 代表はGerald Brown (元USAヘッドコーチ)
- **場所**
 - アリゾナ州ツーソン市にある Arizona State School for the Deaf and the Blind で実施
 - AWDOC (デフ活動支援団体) がスポンサーとして資金・物資支援 (選手・スタッフの食事等)
- **参加者**
 - スタッフ：20人 (幹事3人、コーチ8人、受付会計4人、手話通訳5人)
 - 参加者：70人 (小学生14人、中学生20人、高校生36人)
 - 参加州：アリゾナ州ツーソン、アリゾナ州フェニックス、ニューメキシコ、テキサス、ワシントン、ワシントンDC、ロサンゼルス、サンフランシスコ、ユタ、マリーランド、カンザス
- **概要**
 - 小中高のデフキッズ、デフコーチ、手話通訳者のデフバスケを通しての交流、および初心者含む子供たちが実践的な指導を受けて更なるレベルアップを目的としたキャンプ

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)





コネチカット州デフバスケサマーキャンプの案内

- イベント名

- コネチカット州デフバスケットボールサマーキャンプ

- 主催

- Gallaudet University Basketball Team

- 場所

- コネチカット州ハートフォード市にある American School for the Deaf で実施
- 大変歴史のあるアメリカの聾学校でバスケができたことに感謝

- 参加者

- スタッフ15人（うち幹事2人、コーチ7人）
- 選手57人（中学生と高校生の合計）
- Gallaudet大学入学希望学生でバスケ経験者がメイン



- 概要

- Gallaudet大学に興味のある学生を中心に、選手としてレベルアップできる環境の提供
- ミシガン州のFEARLESSからスキルコーチ2名参加（NBA選手にも指導実績あり）

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)

左からStephanie HC、Kevin HC





キャンプに参加して学んだこと

- 異なる州から来た、お互い見知らぬデフキッズたちが
共通して使っていた『サイン』バスケット
 - 選手同士のコミュニケーションが円滑（聴者も難聴者もデフも）
 - 選手とコーチのコミュニケーションも円滑（聴者も難聴者もデフも）
 - バスケットに対する理解が隔から隔まで行き渡っていた（聴者も難聴者もデフも）
- 手話通訳者もスキルコーチも『サイン』バスケットを使っていた
 - 年1回の頻度で手話通訳者向けのデフバスケット講習会があり、そこで『サイン』バスケットを学ぶ
 - スキルコーチはデフキッズに指導しながら、通訳と身体ジェスチャーで意志を伝えていた
- アメリカのデフバスケットは『サイン』バスケットとともに歩んできた
 - 100年以上前から存在しており、デフバスケットと共に進化を遂げてきたと聞いている

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)



ここで . . .

- 5分休憩です
- ビデオ動画をどうぞ
- 15分間の放映になります
- 声は一切入ってないので、字幕を追いかけてください
- 見直したいときはアーカイブで視聴をお願いします

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)



日本サインバスケのカテゴリライズ

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)

1. バasketボール用語を「サイン」化

(単独でパッと伝わるもの)

- a. 日本手話のCL手法やNMMなどを活用して作成する
- b. ホームページに記載して後世の育成に向けてナレッジ化 (説明動画等)

2. 練習で使う「サイン」 (手話と一緒に活用可能)

- a. 日本手話のCL手法やNMMなどを活用して作成する
- b. 基本戦術に合った「サイン」を作る (ゾーン、UCLAなど小さい固定戦術など)

3. 試合で使う「サイン」 (次のページ参照)

- a. いくつかの意味を、ひとつのサインで素早く伝える



日本サインバスケの作り方（初期）

- アメリカの「サイン」の特徴を参考にしつつ、そのまま真似るか、独創か
 - 対象語の頭文字を持ってくる
（例：PIVOTはPの指文字で回転させる）
 - 片手でも表現できるようにする（例：スクリーンアウト）
 - 方向を示せるようにする（例：プレッシャーディフェンス、スクリーン）
 - 上記に加え、さらに試合での実用性を追い求める
 - 力まない（変に力むとプレイに影響が出る）
 - 小さい動作でもわかりやすい、シンプル、紛らわしくない
 - ドリブルしながらでも使える（片手表現が必須）

ZOOM用カメラ
（手話通訳、説明者用）



日本サインバスケットをどう取り込むのか

- **デフバスケット指導者育成**

- デフにバスケットを指導する際に「サイン」を取り込む
- 母語によって取り込み方に工夫が出てくるので、これらを共有
- 戦術によっては新しい「サイン」が出てくるので、これらを共有

- **デフバスケット手話通訳者育成**

- 「サイン」を使うことによって、通訳のレベルに影響されにくい
- スピードなどの強弱、パワー、タイミング等の表現はバスケット経験者でないと難しい？

- **デフ審判**

- 審判のレポート以外の「サイン」の必要性は？（トレイルやリードの位置調整等）

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)



日本サインバスケの普及スケジュール

- **強化事業（日本代表チーム）**
 - レベルの高い環境で「サイン」の昇華を繰り返す
 - コートとベンチのコミュニケーションの質の向上
 - 誰でもわかりやすい「サイン」を目指すが、読み取られにくい「サイン」も必要
- **育成事業（選手育成、指導者育成、審判育成に関わるデフ・ナレッジの蓄積）**
 - 「サイン」を使った育成、指導、審判を考えて実用性を確認していく
 - U12/U15/U18/U21のカテゴリごとに「サイン」が変わるのか検証が必要
- **普及事業**
 - 声出しバイオレーションの普及とサインバスケの発展は密接な関係にある

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)



お願い

サインバスケはみなさんの協力が 絶対に必要です

ZOOM用カメラ
(手話通訳、説明者用)

- 声出しバイオレーションも含め、デフバスケ関係者の皆様の理解が必要
- 理解を常に正しく更新するための講習会を開催する（年1度）
 - サインバスケ講習会（机上と実技）
 - 指導者講習会（机上と実技）
 - 審判講習会（机上と実技）
 - 各種ワークショップ（情報交換等の場）